

公募による富山県における淡水棲カメ類の分布調査

草間 啓・不破光大・稲村 修（魚津水族館）

An investigation on the distribution of freshwater turtles in Toyama
prefecture by publicly recruited

Satoshi KUSAMA Mitsuhiko FUWA Osamu INAMURA
Uozu Aquarium

はじめに

富山県における淡水棲カメ類（以下、カメ類とする）の分布状況については、富山県両生・爬虫類研究会（1987）や南部（2001）などが在来種であるクサガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポンの2科3種と外来種であるミシシippアカミミガメ、カミツキガメ、ワニガメの2科3種の計4科6種を報告している。

カメ類は古くからペットや食用として利用されており、それらの遺棄・逸出などに加え、開発などによる生息環境の変化などによって、分布状況が年々変化していると推測される。しかし、近年の状況について、ミシシippアカミミガメは南部（2017）が市民自然調査の一環で富山市内の分布調査をした事例および南部ら（2018）が富山県内における本種の分布についての記録をまとめているが、他の種は断片的な記録しかなく、富山県全域におけるカメ類全般の分布調査は行われていない。

そこで今回、魚津水族館（以下、当館とする）で富山県全域におけるカメ類の目撃情報を一般に公募し、カメ類の分布状況を調査した。近年、デジタルカメラに加えて高性能カメラを備えたスマートフォンや携帯電話の普及により、写真撮影や撮影データの授受が容易になっており、写真からの種同定が可能であると考え、一般参加型の

分布調査とした。

調査方法

調査期間は2018年7月23日～2019年10月31日とし、富山県内において目撃したカメ類を撮影し、写真と目撃時の情報（日時・場所・甲長・匹数など）を当館へEメールで送付してもらった。調査への参加の呼びかけは、当館のホームページや公式SNS（Facebook・Instagram）のほか、当館でカメ類を展示している「田んぼの生物多様性コーナー」においてポスター掲示などで呼び掛けた（図1・2）。送付された写真や情報から筆者らが種を同定し、さらに情報提供者に状況などの聞き取りを行って取りまとめた。

結果と考察

期間中に寄せられた情報件数は合計36件であったが、その内の6件は古い情報や写真がなく種の同定に至らなかったため、それらを除外した30件を採用した（図3、表1）。また、1件の情報の中で複数種を含むものはなかった。

【出現種】

確認された数は3科4種で、国外外来種のミシシippアカミミガメが最も多く14件（46.7%）、次いでクサガメが8件（26.7%）、ニホンイシガメが4件（13.3%）、

ニホンスッポンが4件（13.3%）であった（表2）。

今回、市街地や住宅周辺など人の生活圏内で見られたミシシippアカミミガメやクサガメの情報が多く寄せられた。特にミシシippアカミミガメの情報が多かったことから、近年は増加傾向にあると推測された。

【目撃環境】

目撃された環境は、砂浜や海に面した河川周辺、海岸を「河口」、流れの緩やかな河川や支流を「河川」、農業用排水路など人工的に作られた水路（素掘りのものも含む）を「用水路」、公園の池などの人工池や濠などの止水域を「ため池」、水田内（中干し期間中を含む）を「田んぼ」、林道やコンクリート舗装道路を「道路上」と定義した。目撃例の多かった環境は、ため池が12件（40.0%）、次いで河川が7件（23.3%）、用水路が5件（16.7%）、河口が2件（6.7%）、田んぼが2件（6.7%）、道路上が2件（6.7%）であった（表3）。

市街地や住宅周辺にあるため池での目撃数が最も多く、河川や用水路も道路から近い場所で多くが目撃されていた。河口付近で目撃されたものは、近くの河川が増水したときに流されたものだとは推測された。田んぼや道路上で目撃されたものは、近くの河川や用水路間を移動している最中であったと推測される。

今回の調査では、山間部のため池や市街地を離れた場所からの報告は少なく、一般への公募という手法の特徴と考えられた。

また、今回はカメ類が多く生息していると考えられる県西部（富山県両生・爬虫類研究会，1987；南部，2001）よりも県東部の情報が多く寄せられた（図3）。これは、

県東部は県西部に比べ平野部が少なく、人の生活圏とカメ類の生息地が集中しているからと考えられた。一方、県西部では過去に記録のある農業用ため池などが山間部周辺に多く、一般の人の目に付きにくいために情報が少なかったと推測された。

【種別目撃状況】

イシガメ科 Geoemydidae

（1）クサガメ

Mauremys reevesii (Gray, 1831)

今回の調査では、富山市4件、滑川市1件、魚津市2件、黒部市1件の計8件が確認された（図4）。

本種は、本州、四国、九州およびその周辺の島に分布し、国外では中国、朝鮮半島、台湾に生息する（内山ら，2002）。富山県内では主に西部の平野部や丘陵の河川やため池に生息する（南部，2001）。県東部の記録は少なく、近年では滑川市（森ら，2018）、魚津市（森ら，2020）、朝日町（福田・南部，2012）でそれぞれ1か所の報告しかなく、急流河川の多い県東部での生息場所は少ないと考えられていた。

今回の結果では、本種の目撃情報の半数が滑川市、魚津市、黒部市の県東部であったことから、県東部での生息場所が増加している可能性が考えられる。

目撃された環境は、河口・河川・ため池が各2件、用水路・道路上が各1件で（表4）、他種と比較すると最も多様な環境で目撃され、河口での目撃例は本種だけであった。これは本種が河川増水時に海まで流出し、海岸に再び打ち上がったものだと推測されるが、近年数を増やしているミシシippアカミミガメの河口における目撃例はなかった。本種がミシシippアカミミガメよ

りも海へ流出しやすい性質を有するか、そのような環境にあるかは不明である。

(2) ニホンイシガメ

Mauremys japonica

(Temminck et Schlegel, 1838)

今回の調査では、富山市1件、魚津市3件の計4件が確認された(図5)。

本種は、本州、四国、九州およびその周辺の島に分布する日本固有種で(内山ら, 2002), レッドデータブックとやま 2012 では「絶滅危惧Ⅱ類」とされている。富山県内では、かつて各地の平地から山間部のため池、湿地、河畔のよどみで見られたようだが(富山県両生・爬虫類研究会, 1987), 南部(2001)には富山市と南砺市の記録しかなく、もともと生息場所は少ない。近年の記録は、氷見市(川上・西尾, 2017), 小矢部市(福田・南部, 2011), 南砺市(福田ら, 2020)と県西部のみであった。

今回の調査では富山市と魚津市と少ないものの、県東部での確認となった。魚津市では1987年以降32年ぶりの記録で、幼体も発見されたことから周辺に繁殖できる環境が残されていると考えられる(写真1)。

目撃された環境は、河川が3件、田んぼが1件であった(表4)。田んぼで目撃されたものは、隣接した角川水系の河川やその支流から移動してきたと推測された。今回の情報をもとに、河川の流れの緩やかな場所や支流の周辺を探索すれば、さらに発見される可能性がある。

ヌマガメ科 Emydidae

(3) ミシシippアカミミガメ

Trachemys scripta (Wied, 1839)

今回の調査では、射水市2件、高岡市2件、富山市4件、滑川市2件、魚津市1件、

黒部市2件、入善町1件の計14件が確認された(図6)。そのうち、滑川市2件、魚津市1件、黒部市2件は、近年の富山県における本種の分布(南部ら, 2018)にない新たな場所であった。また、確認した14件のうち6件では複数個体が目撃された。さらに、老齢化したオスの特徴である眼後方側頭部の赤色模様や体の縦筋模様が不明瞭になり黒化した個体も目撃された(写真2)。

本種は、北米から中米、南米にかけて広く分布する(内山ら, 2002)。日本では、1950年後半から孵化後間もない幼体が「ミドリガメ」の通称でペットとして輸入され、1960年代後半から捨てられたり逃げ出したりしたものが野生化した(自然環境研究センター, 2008)。富山県内における本種の生息状況は、富山県両生爬虫類研究会(1987)によると、高岡古城公園、射水市足洗潟、富山千原崎地内神通川の3か所のみであったが、南部(2001)では、高岡市小矢部川水系、富山市常願寺川水系でも確認されている。更に近年では、氷見市(福田ら, 2013, 2018, 森ら, 2014), 南砺市(福田ら, 2015), 滑川市(森ら, 2018), 魚津市(森ら, 2009, 2016, 2020), 朝日町(福田・南部, 2012), 入善町(福田ら, 2011; 森ら, 2015)などの報告があり、確認場所が急増していた。

今回の調査では情報の約半数が本種であったことから、人の生活圏内を中心に生息場所が多くなっていると推測された。また、射水市では幼体も発見され、この場所での繁殖が示唆された(写真3)。他にも成熟した個体が複数目撃された場所があり、繁殖している可能性が高いと考えられる。

目撃された環境は、ため池が10件、河川と用水路が各2件で(表4)、いずれも公園

や住宅地に隣接した場所であったため遺棄や逸出がしやすく、それらが定着したと推測された。

スッポン科 Trionychidae

(4) ニホンスッポン

Pelodiscus sinensis

(Wiegmann, 1834)

今回、富山市2件、上市町1件、黒部市1件の計4件が確認された(図7)。

本種は、本州、四国、九州、沖縄島、石垣島、西表島、与那国島などに分布し、国外では中国、朝鮮半島、シベリア島南部から台湾、ベトナム北部などに分布する(内山ら, 2002)。日本各地で古くから養殖されており、自然分布なのか養殖場などから逸出したものなのかの判別は難しい。富山県内では、富山湾沿いの平野部で広く記録があるが2000年頃には稀とされ(南部, 2001)、レッドデータブックとやま2012では「情報不足」とされている。近年の記録では、富山市(森ら, 2016; 2018)、氷見市(福田ら, 2013)、朝日町(福田・南部, 2012)で確認されている。

今回の調査では4件と目撃情報が少なく、過去に記録があった氷見市と朝日町では確認されなかった。しかし、本種は主な生活場所が水中で発見しにくいため、生息場所の減少によるものかは不明である。

一方、黒部市では1987年以降の報告がなく『「まぼろしのカメ」で絶滅したものと思われる(黒部市史編纂委員会, 1988)』とされていたが、本報告が32年ぶりの発見となった。

目撃された環境は、用水路が2件、田んぼと道路上が各1件であった(表4)。田んぼと道路上のものは、隣接する用水路や流

れの緩やかな河川から移動中であったと推測される。本種は、主に水中で生活し、泥底で流れの緩やかな場所を好むため、用水路や穏やかな河川の付近で目撃されたと考えられた。

さいごに

今回、カメ類の目撃情報を一般に公募したことで、広い範囲の情報を得ることができ、これまでに記録の少なかったニホンイシガメやニホンスッポンの情報も得ることができた。しかし、一般公募によるものは、市街地や住宅周辺などの情報に偏るため、今後のカメ類の調査は、山間部などの自然度の高い場所での現地調査を併せて行うことが必要と考えられる。

謝辞

本調査にあたり、カメ類の目撃情報をご提供いただいた方々に感謝申し上げます。

引用文献

- 福田 保・南部久男. 2011. 渋江川の両生・爬虫類. 富山の生物 50 : 37-42.
- 福田 保・南部久男. 2012. 舟川の両生・爬虫類. 富山の生物 51 : 41-44.
- 福田 保・澤田研太・堺 康浩・南部久男. 2013. 仏生寺川の両生類・爬虫類. 富山の生物 52 : 45-52.
- 福田 保・澤田研太・南部久男. 2015. 山田川流域(南砺市)の両生類・爬虫類. 富山の生物 54 : 73-79.
- 福田 保・澤田研太・亀谷三志・南部久男. 2018. 泉川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物 57 : 40-42.
- 福田 保・草間 啓・亀谷三志・澤田研太・

- 南部久男. 2020. 南砺市小矢部川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物 59 : 33-36.
- 川上僚介・西尾正輝. 2017. 氷見市において約 30 年ぶりに記録されたニホンイシガメ. 富山の生物 56 : 89-91.
- 黒部市史編纂委員会(編). 1988. 3 は虫類. 黒部市史 自然編. 黒部市. 169-175.
- 森 大輔・南部久男・福田 保・後藤優介・加藤智樹・荒木克昌. 2009. 富山県における両生類・爬虫類の記録 (2006~2008 年). 富山の生物 48 : 83-90.
- 森 大輔・南部久男・澤田研太・福田 保・後藤優介・荒木克昌. 2014. 富山県における両生爬虫類の記録 (2013 年). 富山の生物 53 : 109-115.
- 森 大輔・南部久男・澤田研太・福田 保・後藤優介・荒木克昌. 2015. 富山県における両生爬虫類の記録 (2014 年). 富山の生物 54 : 107-113.
- 森 大輔・南部久男・澤田研太・福田 保・荒木克昌・草間 啓. 2016. 富山県における両生爬虫類の記録 (2015 年). 富山の生物 55 : 85-89.
- 森 大輔・草間 啓・澤田研太・南部久男・亀谷三志・福田 保. 2018. 富山県における両生類・爬虫類の記録 (2017 年). 富山の生物 57. 84-88.
- 森 大輔・草間 啓・澤田研太・福田 保・亀谷三志. 2020. 富山県における両生類・爬虫類の記録 (2019 年). 富山の生物 59 : 77-79.
- 南部久男 (編著). 2001. 富山市文化科学センター収蔵資料目録第 14 号 両生類・爬虫類. 105pp.
- 南部久男. 2017. ミシシippアカミミガメの分布. 富山市の身近な自然調査 2012~2016 報告書. 富山市科学博物館 : 34-36
- 南部久男・福田 保・森 大輔・澤田研太. 2018. 富山県におけるミシシippアカミミガメの分布. 富山の生物 57 : 91-93
- 自然環境研究センター (編). 2008. 日本の外来生物. 平凡社. 87p.
- 富山県. 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま 2012— : 77-86.
- 富山県両生・爬虫類研究会 (編). 1987. 富山県の両生類・爬虫類 - 自然環境管理計画策定のための調査 - . 66pp.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関慎太郎. 2002. 決定版日本の両生爬虫類. 平凡社. 335pp.

写真を撮って送ろう

魚津水族館では、富山県内の淡水カメ類の生息状況を調査しています！そこで、よりたくさんの情報を集めるために、みなさんからのカメの目撃情報を募集しています！

◆期間：2018年7月23日（月）～2019年10月31日
 ◆対象：淡水カメ類全般
 ◆場所：富山県全域
 ◆方法：魚津水族館のメールもしくはFAXで情報と写真を送付。下記の内容を本文に記入し、カメの写真を添付して送ってください。
 ☆メール（suizoku@city.uozu.toyama.jp）
 ☆FAX（0765-24-4128）

1. 氏名
2. 電話番号
3. カメを見た日時（〇月〇日 〇時頃）
4. カメを見た場所（住所や池川湖等の名前）
5. 見つけたカメの数

◆備考：送っていただいた写真や記録は、貴重な資料として魚津水族館で報告書などに活用させていただきます。

**捕獲したカメの持ち込みは
ご遠慮ください**

お問い合わせ：魚津水族館（0765-24-4100）

図1 調査の参加募集ポスター（1）

スマホで簡単

お手持ちのスマートフォンを使えば、気軽に報告メールが送れます！

STEP1
写真を撮る！

ズーム機能を駆使して、できるだけカメの顔や体が大きくキレイに写る写真を撮ろう！

STEP2
QRコードを読み取る！

うすいへの送信メールが自動で作られるよ

STEP3
本文に情報を記入！

宛先: suizoku@city.uozu.toyama.jp
 件名: うすい淡水カメ調査

1. 氏名
魚津 奥太郎

2. 電話番号
0765-24-4100

3. カメを見た日時
2018年7月24日10:30頃

4. カメを見た場所
魚津山二ノ 魚津水族館近くの池

5. 見つけたカメの数
1匹

写真を添付して送信！

図2 調査の参加募集ポスター（2）

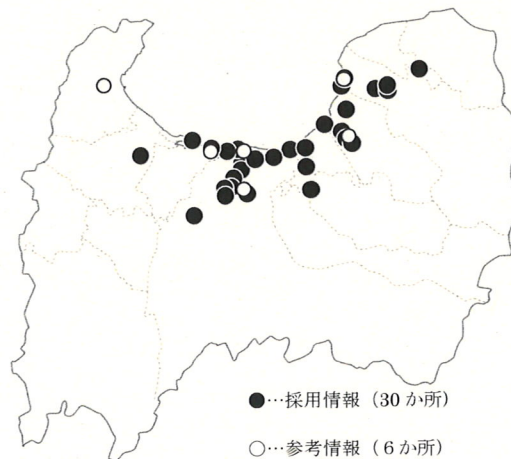


図3 報告された地点（36 か所）



図4 クサガメの報告地点

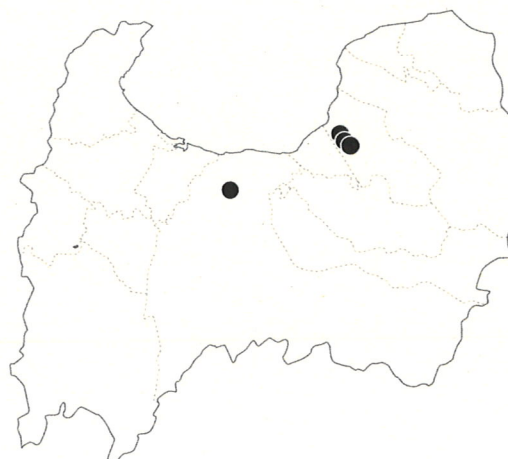


図5 ニホンイシガメの報告地点

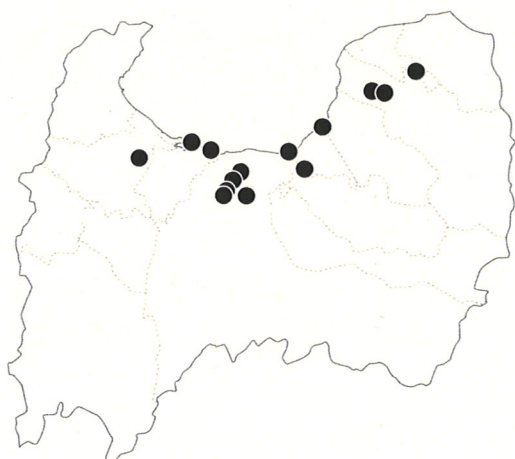


図6 ミシシippiaカミミガメの報告地点



写真1 2019年9月9日
ニホンイシガメ (幼体)



図7 ニホンスッポンの報告地点



写真2 2018年8月24日
ミシシippiaカミミガメ
(老齡化したオス個体)



写真3 2018年7月26日
ミシシippiaカミミガメ (幼体)

番号	発見日	種名	甲長(cm)	個体数	発見場所	環境	詳細
1	20180608	クサガメ	17	1	富山市草島	河口	神通川左岸
2	20180609	ミシシippアカミミガメ		1	黒部市宇奈月町	用水路	くろべ牧場付近
3	20180609	ミシシippアカミミガメ		多数	高岡市古城	ため池	高岡古城公園の濠
4	20180618	ミシシippアカミミガメ		1	射水市海竜町	用水路	堀岡小学校の前
5	20180620	ニホンスッポン		1	黒部市立野	用水路	素掘りの用水路
6	20180624	ニホンスッポン		1	富山市婦中町長沢	道路上	山田川左岸
7	20180724	クサガメ	19	1	魚津市六郎丸	道路上	労災病院の駐車場
8	20180725	ミシシippアカミミガメ	15-20	5	入善町棚山	ため池	棚山ファミリーランド
9	20180725	ミシシippアカミミガメ		1	富山市五福	ため池	水墨美術館
10	20180726	ミシシippアカミミガメ	5	1	射水市海老江	ため池	足洗湯公園
11	20180726	ミシシippアカミミガメ		3	滑川市堀江	ため池	童和保育園の横
12	20180726	クサガメ		1	滑川市上小泉	ため池	行田公園
13	20180802	クサガメ	20	1	富山市平榎	用水路	常願寺川左岸にあるため池の横
14	20180803	ニホンスッポン	35	1	富山市下飯野	用水路	赤田川と中川の間
15	20180806	ミシシippアカミミガメ	15	2	黒部市本町	ため池	民家付近
16	20180812	ミシシippアカミミガメ		多数	高岡市古城	ため池	高岡古城公園の濠
17	20180814	ニホンイシガメ	20	1	魚津市(※)	田んぼ	中干しをしている水田
18	20180824	ミシシippアカミミガメ	老齢化オス	1	富山市石坂東町	河川	神通川北大橋の左岸
19	20180829	ニホンスッポン		1	上市町稗田	田んぼ	稗田交差点付近
20	20180902	ミシシippアカミミガメ		1	富山市五福	ため池	水墨美術館横の池
21	20180903	クサガメ		4	富山市中島	河川	富岩運河とがめ川の合流点
22	20181008	クサガメ		1	黒部市宇奈月町	ため池	ため池
23	20190506	ニホンイシガメ		1	魚津市(※)	河川	河川の右岸
24	20190526	クサガメ	10	1	富山市四方港町	河口	四方漁港付近の砂浜
25	20190604	ミシシippアカミミガメ		1	滑川市魚躬	ため池	上市川河口のワンド
26	20190613	クサガメ		1	魚津市寿町	河川	片貝川河口から約200mの左岸
27	20190615	ミシシippアカミミガメ		1	魚津市三ヶ	ため池	ミラージュランド内の三日月池
28	20190623	ミシシippアカミミガメ		5	富山市中島	河川	中島開門からがめ川の間
29	20190718	ニホンイシガメ	18	1	富山市(※)	河川	河原
30	20190909	ニホンイシガメ	4	1	魚津市(※)	河川	河川とその支流の合流点

表1 寄せられた情報の一覧

(※)…希少種保護の観点から、詳細な場所の表記は控えた。

科名	種名	件数	割合(%)
イシガメ	クサガメ <i>Mauremys reevesii</i>	8	26.7
	ニホンイシガメ <i>Mauremys japonica</i>	4	13.3
ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ <i>Trachemys scripta elegans</i>	14	46.7
スッポン	ニホンスッポン <i>Pelodiscus sinensis</i>	4	13.3
計		30	100.0

表2 種類の件数と割合

環境	件数	割合(%)
河口	2	6.7
河川	7	23.3
用水路	5	16.7
ため池	12	40.0
田んぼ	2	6.7
道路上	2	6.7
計	30	100.0

表3 環境の件数と割合

	クサガメ	ニホンイシガメ	ミシシippアカミミガメ	ニホンスッポン
河口	2	0	0	0
河川	2	3	2	0
用水路	1	0	2	2
ため池	2	0	10	0
田んぼ	0	1	0	1
道路上	1	0	0	1

表4 種類ごとの環境の件数

魚津水族博物館年報 第31号

ANNUAL REPORT OF UOZU AQUARIUM No.31

2022年1月 編集

編集／魚津水族博物館

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390

TEL (0765) 24-4100

FAX (0765) 24-4128

HP <http://uozu-aquarium.jp>

E-mail suizoku@city.uozu.toyama.jp